

平成31年度 緑区地域活性化支援事業 補助金交付団体一覧

I 地域づくり活動支援コース

No	団体名	活動・事業名	事業の目的	取組内容	実施場所	期待する効果・成果	交付決定額(円)	審査委員会コメント
1	きりん文庫	きりん文庫	・核家族が広がる中、親子共に孤立せず、助け合いながら楽しく子育てしていただけるような場が必要であるため、文庫を開くことで子供たちの生きる力を育むための手伝いをする。	・自宅の一室を親子のための図書館として開放し、地域の子育て世代が集う場として提供する。 毎週木曜日:14:30~16:30 ・就学前から小学生及び保護者向けの図書置き、本の紹介、読み聞かせ、貸し出しを実施する。	代表者の自宅	・子供達が絵本、読み物などを通して豊かな心や多くの知識を自然に身に付けていけるような環境のある地域となることを期待する。 ・子育て世代が交流を深め、様々な面で助け合いながら楽しく生活することができる地域となることを期待する。	120,000	文庫を開設することにより、子供や子育て世代への居場所を提供し、読書を通じた地域コミュニティの推進に寄与することを評価します。今後、担い手の確保・育成に力を入れることによりメンバーを増やすとともに、活動の充実を図り、地域に根付いていくことを期待します。
2	土気絵本の会	「土気絵本の会」活動事業	・読書ボランティア活動に興味を持って参加してくれる方を増やし、読書推進活動を活発にする。 ・現在、学校等で「絵本の読み聞かせ」や「昔話」を実施している人達のスキルアップを図る。 ・地域の人達を年齢を問わず絵本の世界に誘い、子どもから大人まで楽しめる事を伝える。 ・これまでの活動で会員だけの力の限界を感じ、第一人者の力を借りて今後の活動に繋げる。	・定例会 ・テーマに沿って絵本の世界を楽しむ会。 ・講師を招いての講演会を開催する。 ・小学校、幼稚園等でおはなし会を開催する。	土気公民館 緑区ボランティア活動室	・ボランティアのスキルアップ勉強会で絵本の知識を深め、子どもと本を繋げる活動に関わる人が育ってほしい。 ・地域の高齢者に、絵本の喜びと一緒に味わい、図書館で懐かしい本と出会い、楽しんでほしい。 ・絵本、昔話を通して、読書の喜びを多くの人に伝えたい。	50,000	絵本の読み聞かせを通じた子供の情操教育の推進に寄与しているとともに、地元の施設を活用することにより地域に根付いていることを評価します。今後とも、活動の継続・拡充を図るため、団体のホームページを作成するなど広報活動を充実することを期待します。
3	かかしアート実行委員会	かかしアートまつり	・畷田地域内の子供たちを中心に「かかしアートまつり」を開催し、芸術文化の普及と親子・有志・町内の皆さんとの交流の場とする。 ・地域内の谷津水田の早苗から稲穂の刈り取りの期間中開催し、「かかし」の特徴と自然の背景が移り変わる「アートの感覚」を堪能しつつ、散歩する方々に、話題と散歩活動の活性化と充実を図る。 ・コミュニティの機会を増やし、日常的な見守り活動などのボランティア活動の環境をつくる。	・「かかし」を親子で制作する(畷田小、畷田東小、畷田中美術部、幼稚園、保育園)。 ・「かかし」を設置する(地域内の谷津水田沿いの散歩コース)。 ・散歩コース内のかかしの芸術性を楽しんでもらい、歩く楽しさを提供する。 ・関係者に応援、協力の声掛け、活動を週、ボランティア活動の輪を広げる。 ・様々なセミナーや研修会等に参加し、ボランティア活動の知識を高める。	畷田中学校区内	・芸術文化的感性の向上と自然の大切さを感じる機会とする。 ・親子と高齢者が町の中で共に過ごし、日々支え合いの環境を通じ、町の中で健全な話題づくり、散歩活動等の活性化と散歩コースの充実を図る。 ・町内自治会会員の脱退が増え、全世代参加と任意参加項目を認め合い、参加代を率先で、喜び合える支え合うまちづくりの実現。	50,000	地域資源を活かし、親子のコミュニケーション作りを通じた地域の活性化に取り組んでいることを評価します。今後、かかしの制作に資するノウハウをスタッフ自ら習得できるよう担い手の育成に努めるとともに、地域内の交流を深め、地元への愛着意識の醸成につながることを期待します。
4	放課後カフェ実行委員会	中学生の居場所づくり「放課後カフェ」	・おゆみ野地区では、中学生の居場所づくりの活動はどこにもない。中学生にも居場所があってもいいのではないかと考え、有吉中学校の協力の下、放課後カフェを開催し、学校が終わった後に行くあてのない子や塾などで忙しい子にほっとできる時間を作り、地域の大人と知り合える場所を作る。	・飲み物やお菓子を食べながら、ゲームをやったり漫画を読んだり、自由にくつろげる時間をつくる。	有吉中学校調理室	・地域の人達に中学生の居場所づくり「放課後カフェ」が知れ渡り、ボランティアの人材確保が容易になること。 ・スタッフが生徒と知り合うことにより、地域の中で自然な形で生徒を見守っていくこと。 ・「地域の人」だという応援団が身近にいるんだよというメッセージを、生徒に送り続けること。	25,000	「中学生の居場所づくり」という観点に着目し、学校と連携しながら取り組んでいることを評価します。今後は、居場所の提供にとどまらず、参加者が主体となって地域との交流につながるよう活動内容の充実にも努めてください。
5	大木戸台シニア支援の会	見守り・助け合い事業	・大木戸台団地に住む高齢者や障害者が安心して暮らせるために、要望に応じて支援し、住民が自発的に参加して行くことを目的とする。	・買い物支援 ・庭木の刈込・草取り、室内の重量物の移動 ・高齢者や独居者に対する見守り活動 ・住民が集まり、気軽にコミュニケーションをとることができる拠点づくり(団地内の空室を利用) ・ボランティア活動への理解と啓蒙、受け皿となる。	大木戸台団地全域	・安全で安心して住み続けられる町 ・住民が自発的にボランティア活動に参加する町 ・お互い様の気持ちが高まり、住民のふれあいの町 ・清潔で美しい町	200,000	高齢者等のニーズに沿った地域住民の主体的な見守り・助け合い活動に取り組むことを評価します。今後は、地域で活動する他団体との連携を深めるとともに、活動の担い手を広げることにより、他地域のモデルケースとなることを期待します。
6	古民家 宙/そら	古民家 宙/そら再生プロジェクト	・上大和田地域に残る伝統的な田舎づくりの古民家と里山(裏山と畑)の再生を主目的とし、古民家や庭・畑の整備活動を通じて「体験」の場の創出を図るとともに、再生整備の過程を地域の人達や街の子供達とともに楽しみながら体験型ワークショップとして取り入れ、地域の再生を試みる。 ・地域住民への呼び掛けを強化し、ワークショップの講師、または参加者として活動に参加してもらったことにより、地域と密な関係を持った場にしていきたい。	月1回程度、親子を主体とした体験型のワークショップを実施する。 春 裏山整備、畑の開墾整備 → 作物の苗植え、古民家の修繕(玄関、トイレなど) 夏 畑の草むしり、流しそうめん 秋 裏山整備、畑の収穫、秋の食体験 冬 裏山整備、古民家環境整備(障子張り、襖張り、神棚清掃と正月準備)	古民家 宙/そら(上大和田町)	・粗削りなここにはかない古民家と里山の再生過程の体験を通して街から来た子供達が、自然に抱かれ時間を忘れるほどに夢中に創造性あふれる時間の中で欲求を充足し、元気で笑顔あふれる光景を創り出すことと地元活性化のきっかけを創り出します。 ・豊かな自然の中での昔ながらの生活を多くの子供に伝えながら、畑・里山の整備を継続的に地域住民と共にやっていくことにより、空き家だった古民家が地域の拠点として生まれ変わります。これにより、地域住民と街から来た家族連れや里山再生の専門家との関係構築が生まれ、新たなコミュニティを作りだし、地域の活性化に貢献することを目指します。	200,000	里山を含めた古民家の活用による地域の活性化に取り組んでいることを評価します。今後は、地元団体や自治会との連携を図るとともに、地域住民の理解や協力を得られるよう地域との交流を深めることにより新たな地域コミュニティの創生につながることを期待します。
7	生涯大学校 地域活動 外房会	緑区内の特別養護老人施設等ボランティア活動の支援事業	・千葉県生涯大学校を卒業したメンバー13人により、主に社会福祉ボランティア活動の実践を通じて、地域社会活動のリーダーの担い手となることを目的に団体が発足した。	・区内の特別養護老人施設等を訪問して入所者と一緒に歌(季節の童謡や昭和の歌謡曲)を歌うとともに、アルパ(ハーブ)演奏を行う。 ・区内の特別養護老人施設等を訪問して施設内の花壇を管理する活動(花の種まき、植栽、草取り、消毒、施肥など)を行う。	区内の特別養護老人施設等	・特別養護老人施設等に入所・通所している介護者が元気で楽しく老後を過ごしていただくことを期待します。	138,000	福祉施設の入所者とのコミュニケーションを通して、音楽による健康維持・増進に取り組んでいることを評価します。今後は、区民を中心に担い手の拡大に努めるとともに、活動対象が施設入所者にとどまらず、地域での活動に拡大することを期待します。
8	おゆみ野アーカイブ	まるごとおゆみ野	・おゆみ野のまちびらきから30余年経ち、縄文時代の貴重な文化遺産があるにも関わらず、一部のみにしか知られていない。 ・地域を知る手立てとして、おゆみ野の歴史をWEB上に集め、発信することにより、郷土愛を育む。 ・新しく住民となった人たちにとっておゆみ野の今を知る手立てとしての情報を収集・発信し、まちづくりに寄与する。	・「まるごとおゆみ野」のホームページ作成。 ・内容をより良いものにするため、運営委員や地域の活動団体と意見交換を行う。 ・おゆみ野の歴史講座の開催と記録掲載。 ・地域のあらゆる情報発信をする場としての「まるごとおゆみ野」の周知を図る。	おゆみ野地域	・多くの人が住むまちおゆみ野に関心を持ち、まちづくりに寄与する人達が増えることを期待する。 ・ポータルサイトの情報から地域の活動に関心を持ち、参加し、関わりを持つ人達が増えることを期待する。	200,000	地元の歴史を含めた地域に密着した情報の収集・発信に取り組んでいることを評価します。今後は、ホームページへのビジュアルが増えるよう情報提供の充実にも努め、より多くの方が地域への興味や関心を持ち、交流が広がることを期待します。

9	おゆみ野の道・緑とせせらぎの会	泉谷公園のヤマユリを復活させるプロジェクト	・宅地造成前のおゆみ野は、谷地が入り組んだ地形で、斜面は雑木林となっており、大輪のヤマユリが咲き人々を和ませ、食用にもなっていた。 しかし、宅地造成により雑木林は消滅し、わずかに残った泉谷公園では手入れが行き届かず、このままではヤマユリが絶えてしまう状況であるため、次世代につなぐ復活活動を行いながらおゆみ野の名所としたい。	・ヤマユリの自生状況調査 ・ヤマユリ種子の温度処理 ・ヤマユリサトウの募集 ・ヤマユリ自生地の育成環境の保全 ・開花するまで育った球根を公園内適地に戻す作業 ・上記に係る広報、啓蒙活動	泉谷公園	・第1の段階は、本会が採取し、129日間温度処理した種子を参加者がプランターに蒔き花が咲くまで育てる。 ・第2の段階は、花が咲くまで育った球根を自生地に戻し、自生地の環境で途絶えることなく花を咲かせ続けるかどうかである。 ・これには3～5年の観察と環境整備が必要であり、短期間で結果がでる事業ではないため、泉谷周辺をスタート地点とし、里山の活動と段階的成果を住民が眺め、おゆみ野の自然の大切さを肌で感じるコミュニティの広がりと浸透を期待している。	80,000	ヤマユリの復活活動を通して、地域コミュニケーションの活性化につながる取り組みであることを評価します。今後、活動内容の広報に力を入れることにより多くの方に参加していただき、ボランティア活動として一層拡がっていくことを期待します。
10	花みずきいきいきサロン	花みずきいきいきサロン	・街開きして36年経過し、子供達は独立して別居が多く、高齢化が進み、地域の活力が少なく、静かな街になってきました。 ・住み慣れた街において、健康を維持して自立していくための様々な活動を通じて地域住民の連帯意識を高め、暮らしやすく、心豊かな生活を送ることができるよう地域の一角の活性化につながることを目指します。	・健康に役立つ講習会の開催 ・健康体操の実施 ・話合いの場、レクリエーションの場の提供 （折り紙、小物作り、ギター演奏、合唱、ポッチャ競技会など）	みずき・かつら街管理集会所	・活動に参加して、心身ともに健康増進して、自立した心豊かな生活を送ることができる地域の形成を期待します。 ・共に生き生きと活動して、災害時にも平時にも手をつなぎ、助け合う気持ちが芽生え広がる地域となることを期待します。 ・自助、互助、そして公助に感謝して、笑顔で共生する地域となることを期待します。	50,000	高齢者が徒歩で通えるような場所で健康増進活動に取り組むことを評価します。今後、地域人材の掘り起しを進めることにより活動の担い手を増やし、地域コミュニティの推進につながることを期待します。
11	大膳野町内会	美しく明るい町内	・地域の美化活動を行う事により、子供達の通学路でもあり、情操教育につなげるとともに、住民相互の理解を深める。	(通年作業) ・植え付け準備 ・草花の植え付け ・水遣り ・草取り ・植え替え等	大膳野町自治会館及びコミ集積所付近	・住人相互の親睦が図られることを期待する。 ・環境美化活動が地域の防犯にもつながることを期待する。	80,000	町内自治会が中心となって地域の美化活動に取り組むことを評価します。今後、親子で参加できるような工夫することにより活動の輪を広げるとともに、近隣の団体にも活動が波及し、地域コミュニティの推進につながることを期待します。
12	みどりのかふえ	みどりのかふえ	・シニア世代のQOLを向上させるための介護予防、認知症予防の実践場として、シニア世代の嗜好の多様性に対応する居場所作りと、行政、地元医療機関との連携を構築することによる効果の最大化を狙う。 ・地域のボランティア団体との連携を深め、介護予防の必要性、地域相互支援活動の必要性等について活動をおして幅広く啓蒙していく。	・みどりのかふえを毎週水曜日定期開催し、介護予防の地域活動を展開する。 ①軽度認知症の居場所作りの充実を目指す。 ②介護予防のための実践指導の通所としての役割を果たす。 ③関係医療機関、行政機関との連携を深めていく。 ④広く介護予防活動を展開するために地域ボランティア団体との連携を拡大する。 ⑤担当スタッフのスキルアップを図るとともに、楽しく長期にわたってボランティア活動に関わってもらうための取組みを行う。	ピーアークおゆみ野店の隣サロンスペース(おゆみ野3丁目)	・地域包括ケアシステムの必要性をシニア層、地域団体に広げたいことを期待したい。 ・シニア自身健康保持の活動の大切さを感じてもらい、QOLの向上につながることを期待する。 ・運営ボランティア自身の長期にわたるモチベーションの向上に寄与。 ・医療機関及び関係企業(病院・通所施設・地元企業・健康促進事業者等)との連携により、本事業の最大限の社会的効果を期待したい。	200,000	地域企業との連携・協力のもと、高齢化社会の課題である孤立化や引きこもりの予防に取り組んでいることを評価します。今後、補助金を原資に購入した機材を有効活用したプランを継続的に企画することにより、参加者が増え、地域の輪が広がることを期待します。
13	おゆみ野「たんぼぼの会」	子ども食堂「たんぼぼ」	・仕事で忙しい親、その結果、インスタント食品等で「孤食」に陥るを得ない子供や独居している高齢者を対象に、月1回の「子ども食堂」での和気あいあいとした昼食は、「食の喜び」を味わえるだけでなく、多世代との交流も図れる貴重な時間になるに違いない。お互いが顔見知りになれば、防犯に役立つばかりでなく、災害時の助け合いにもつながると考える。	・日時:毎月第3土曜日 12時～14時 ・対象:子供とその親、高齢者	おゆみ野市営第一団地自治会集会所	・子供、親、高齢者が「食」の場を共有することでより親しい関係が築かれ、地域の防犯・防災対策につながることを期待します。	50,000	食を通じて子供と高齢者を対象とした見守り・支え合いの活動に取り組んでいることを評価します。今後、衛生面に配慮しつつ活動を継続するとともに、参加者が固定化しないよう工夫することにより、子供と高齢者の交流が深まり、お互いのコミュニケーションが拡充されることを期待します。
14	おはなしホテル	ブラックシアターを中心としたお話し会活動	・活動を中心とする地域は、高齢の方が多いため、近年、保育園や小学校だけでなく、福祉施設などでも広がっている「ブラックシアター」の製作、発表を中心に行う。 ・地域の方々の参加や子供達からも発表者を募り、発表を行う。紙芝居などを自分たちで発表することにより、自信をつけ、自己肯定感の高揚につながることを考えると、近隣幼稚園などに出張してブラックシアターを上演し、地域活性化に貢献することを目的とする。	・子供への紙芝居等体験活動 ・大人による子供におすめの読書紹介活動、ブラックシアターの製作・上演 ・その他目的を達成するための活動	おゆみ野みずき・かつら街集会所	・子供達にとっては、紙芝居等自分達で発表する場をもつことにより自信をつけ、自己肯定感の高揚につながることに、大人にとっては会に参加し、孫、子供などと一緒に発表を観ることなど、周囲の人たちの交流を楽しんだり、家庭での会話の一つとしてもらいたい。	100,000	ブラックシアターを通じた地域交流や自らの作品を発表することにより子供たちの自己啓発や社会性の涵養に寄与する活動に取り組むことを評価します。今後、子供や高齢者がふれあっていたり交流できる機会が増えるよう活動内容を充実させていくことを期待します。
15	「がんとーく」の会	「がんとーく」	・がん患者、家族、遺族と共に気持ちの整理のお手伝い。 ・悩みに寄り添い、想いに共感し、同じ目線に立つ事で共に解決方法を探る。解決は本人が導き出すものと考え、それまでのお手伝い。	・「みんなの広場」を借りて、がん経験者が「がんとーく」を開催。主催者はがん患者、家族、遺族の経験があり、県のがんピアサポート研修、グリーフケア専門課程など修了。来訪者の気持ちに寄り添い、経験を通した言葉を交わすことで、「自分だけではない」と気づき、また失敗談や体調維持の工夫など、知識ではなく実体験からの情報を生で交換する事が出来る場となるよう活動する。 ・今年度導入した「がんとーくぶんこ」はあふれる情報を整理することに役立つため、次年度はこれらの内容を整理し、外部に向けての勉強会の開催を計画する。	みんなの広場(おゆみ野3丁目)	・「私、風邪ひいたの」と話すように「私、がんなの」と特別視されることなく自然に話せるように、皆が理解者・支援者に自然となれることなど住み慣れた街で自分から患者も家族も安心して暮らせる街づくりの第一歩を踏み出したい。その想いで活動を継続し、次のステップに進みたい。	200,000	がんにより不安や悩みを抱えている本人やその家族、遺族を含めた方々に居場所を提供し、きめ細かな支援に取り組んでいることを評価します。今後、補助金を原資に購入した書籍を有効活用し、セミナーを開催するなど活動の輪を広げ、一人でも多くの方が安心して暮らせるよう地域コミュニティの構築につながることを期待します。
16	かがやきっ子食堂	地域の子どもが「安心して暮らせる居場所」づくり事業	・地域での「孤食」を無くし、地域で子ども達が安心して集える場所を作る。 ・子ども達が生きやすい社会づくりを地域から興すことを目指す。 ・「食事を共にするなかで、互いに抱えている家庭、経済的な「困りごと」を発見できる場として機能し、その解決のために考えられる関係を築く。	・月に一度、第3水曜日に「かがやきっ子食堂」を開催する。時間:17:30～19:00 ・安い料金(100円)で夕食を提供し、大勢で食事を囲む楽しさや一緒に食べる美味しさを感じてもらおう。 ・給食が無い夏休みなどにはランチタイムでの食堂開催。	おゆみ野キリスト教会菅田チャペル(菅田町2丁目)	・地域での「孤食」がなくなること、様々な意味で困難に陥っている子どもや家庭に、行政等から必要な支援が入り、困った時に頼れる場所が出来ること。 ・「子ども食堂」という活動が必要とされなくなるほどに、行政、民間、地域住民同士の交流が深まり、地域で暮らす子供達に目を向けるようになることを期待します。	200,000	「子ども食堂」の活動を通じ、地域の中で子供を見守る取り組みが得られることなどを評価します。今後とも、民生委員や学校などとの連携を図るとともに、参加者同士の交流が深まり、お互いのコミュニケーションの拡充につながることを期待します。
17	不妊ピアサポート Peerless	不妊体験者の未来支援事業	・5.5組に1組が不妊治療を経験し、3組に1組が不妊に悩んだことがあると言われる昨今、不妊の悩みは周囲に相談しにくいことから、つらい思いを抱えている人がたくさんいます。また、相談しようにも場所がないのが現状で、市の不妊専門相談も月に1回の実施で3組しか枠がありません。 ・心のケアとして、医師や保健師だけでなく同じ不妊の経験のある「ピア」という立場だからこそサポートを地域に広げていきたい。	・不妊ピアおしゃべり会の開催 毎月第4土曜日 14:00～16:00 ・妊活支援のための専門講師によるセミナーの開催 ・不妊ピアサポートの医療機関や行政機関との連携体制の構築 ・里親制度、養子縁組制度との連携体制の構築	みんなの広場(おゆみ野3丁目) ・鎌取コミュニティセンター	・不妊で悩む人達の精神的なケアが身近になることでストレスを緩和し、妊娠できる可能性が高まることも考えられるため、妊活支援とあわせて少子化問題の改善も期待できると考えます。 ・不妊で夫婦関係や生き方に悩む人達が事業を通じて自身の生き方を前向きに考えたり、夫婦関係の向上により離婚率が減り、子供がいなくても活き活きとしている人達が区内に増えることを期待します。 ・里親や養子縁組を増やしていくことで社会的養育が必要な子供の減少につながっていく。	50,000	不妊の悩みを抱えている方へのきめ細かな支援に取り組むことを評価します。今後、行政機関と連携を図るとともに、参加者が固定化しないようセミナーの開催内容を工夫するなど、一人でも多くの方の不安や悩みが解消され、安心して暮らせるよう地域コミュニティの構築につながることを期待します。

						小計	1,993,000	
--	--	--	--	--	--	----	-----------	--

II 区テーマ解決支援コース

No	団体名	活動・事業名	事業の目的	取組内容	実施場所	期待する効果・成果	交付決定額 (円)	審査委員会コメント
18	おゆみのボッチャクラブ	ボッチャ体験会	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年に開催される東京オリンピックに向けて多くの関心が寄せられている一方で、障害者スポーツへの認知度の低さから、同時に開催されるパラリンピックへの興味、関心が低い現状がある。 ・障害者スポーツ中級指導員の有資格者を中心に地域に向けボッチャ体験会を開催することを通して普及啓発を行い、障害者スポーツへの興味、関心の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボッチャ審判員の有資格者が規則等の講義をした後に体験会を開催する。 ①福祉施設の秋祭り開催時 ②医療機関で実施している健康教室・秋祭り等 ③シニアリリー体操教室開催時(区内8箇所) 	おゆみ野地区内の福祉施設、医療機関、区内シニアリリー体操教室	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子供から高齢者まで多くの人にボッチャの楽しさを知ってもらうことで、障害者スポーツに対して興味を持ってもらい、東京2020年オリンピック・パラリンピックの盛り上がりにつながることを期待する。 ・障害者スポーツを通じて、障害者に対するの偏見やイメージを変え、障害者が暮らしやすい環境のひとつになることを期待する。 	50,000	区が設定したテーマに沿った啓発活動に取り組んでいることを評価します。今後とも、活動を継続し、ボッチャの普及に努めることにより、多くの区民がバラスーツへの関心や興味を持つきっかけとなり、地域における今後の機運が盛り上がることを期待します。
19	千葉ゴールボールクラブ	ゴールボール普及プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会まであと1年半となりますが、市民にとって県内開催競技に接する機会が多いとは言えない状況に加え、パラリンピックに関しては身近に競技している人も少ない状況です。 ・県内開催パラリンピック競技の中でも誰もが様々な形で参加しやすい「ゴールボール」に着目し、競技の普及活動を通して、多くの方々がパラリンピック競技に親しみを持つきっかけづくりをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールボールの練習、体験会を中心に活動をしていく中で区民の関心が高まるよう普及活動を行う。 ①定期的な練習・体験会 ②情報発信(活動報告、ゴールボールの紹介、ゴールボール関連イベント告知等) ③勉強会(歴史、ルール、審判方法) ④協力団体への依頼、意見の聞き取り等 ⑤見学者、協力者、体験者、参加者、メンバーの募集 ⑥ジャパンハラゴールボール競技大会の応援 ⑦ゴールボールオフィシャル取得 ⑧初心者向け大会の出場 ⑨大会の競技ボランティア 	緑区(メイン)、中央区、四街道市	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールボールを通して、地域で障害の有無、年齢に関わらず、楽しい時間を共有できる仲間が増えていくことを期待する。 ・障害の有無、年齢にかかわらず一人でも多く参加していただき、ゴールボールにはひとりひとりできることがあることを自然に学び、支え合う活動となることを期待する。 ・東京2020オリンピック・パラリンピックに市民が希望を抱き、より多くの方が関心を持ち、緑区を中心に全体で盛り上がりの機運が高まることを期待する。 	50,000	区が設定したテーマに沿った啓発活動に取り組んでいることを評価します。今後とも、活動を継続し、ゴールボールの普及に努めることにより、多くの区民がバラスーツへの関心や興味を持つきっかけとなり、地域における今後の機運が盛り上がることを期待します。
						小計	100,000	

全コース合計 交付件数 19件 交付決定額 合計 2,093,000